

## Ⅱ. 施設サービス

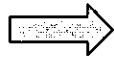
### 施設における入退所者の状況

- 特別養護老人ホームでは、他の介護保険施設からの入所者、死亡退所者が多い。
- 老人保健施設では、入所前の場所、退所後の行き先のいずれについても、家庭が多い。
- 介護療養型医療施設では、入院前の場所、退院後の行き先のいずれについても、医療病床又は他の病院・診療所が多い。

(入所(院)前の場所)

新入所者 5,595人

家庭	31.5
他の介護保険施設	37.5
病院・診療所	24.7
その他	6.3



特別養護老人ホーム



(退所(院)後の行き先)

退所者 4,890人

家庭	3.1
他の介護保険施設	2.4
病院・診療所	27.5
死亡	66.3
その他	0.7

新入所者 32,464人

家庭	54.3
他の介護保険施設	8.1
病院・診療所	36.5
その他	1.2



老人保健施設



退所者 32,974人

家庭	54.1
他の介護保険施設	11.8
病院・診療所	31.3
死亡	1.3
その他	1.5

新入院患者 10,680

家庭	25.2
他の介護保険施設	6.5
医療病床又は他の	
病院・診療所	66.7
その他	1.6



介護療養型医療施設



退院患者 10,346

家庭	30.6
他の介護保険施設	14.2
医療病床又は他の	
病院・診療所	31.6
死亡	21.7
その他	1.8

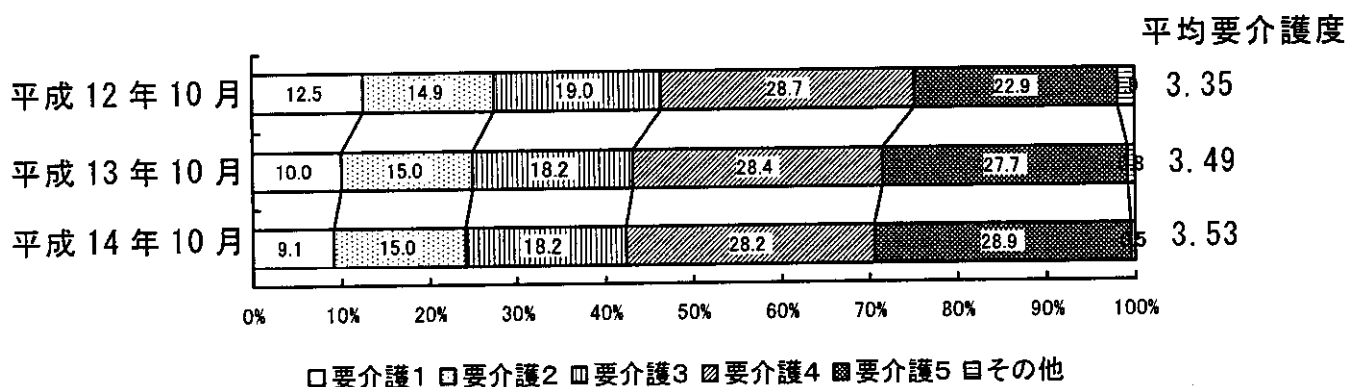
(出典：介護サービス施設・事業所調査、平成14年9月の介護保険施設入退所の状況)

## 施設入所者の重度化

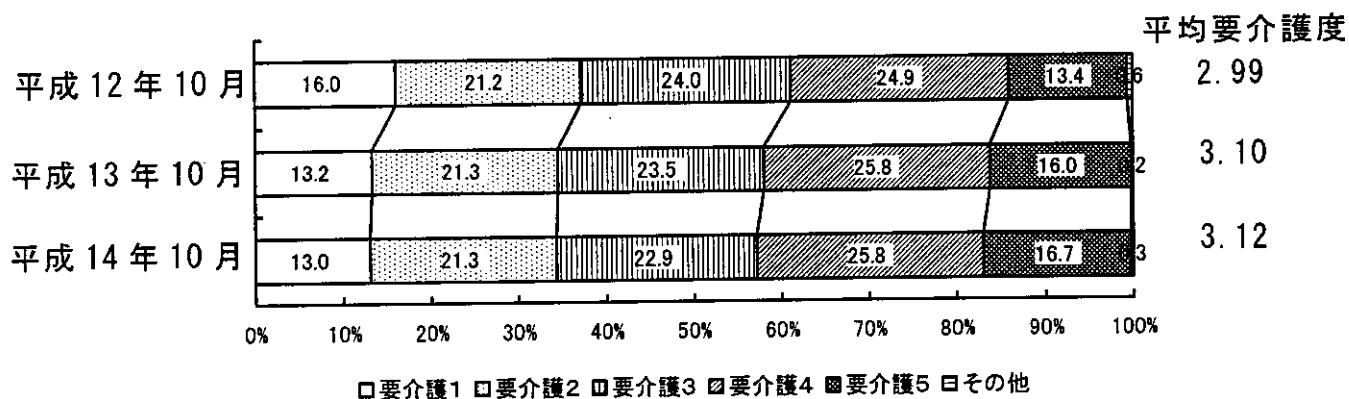
○ 介護保険施設の入所（院）者の重度化が進んでいる。

### 介護保険施設の要介護度別在所者の割合

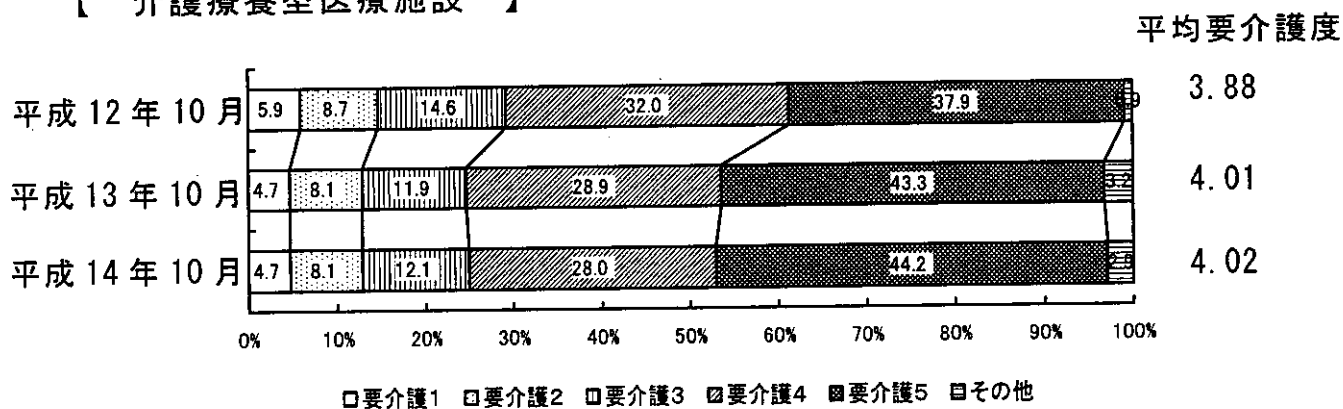
#### 【 特別養護老人ホーム 】



#### 【 老人保健施設 】



#### 【 介護療養型医療施設 】

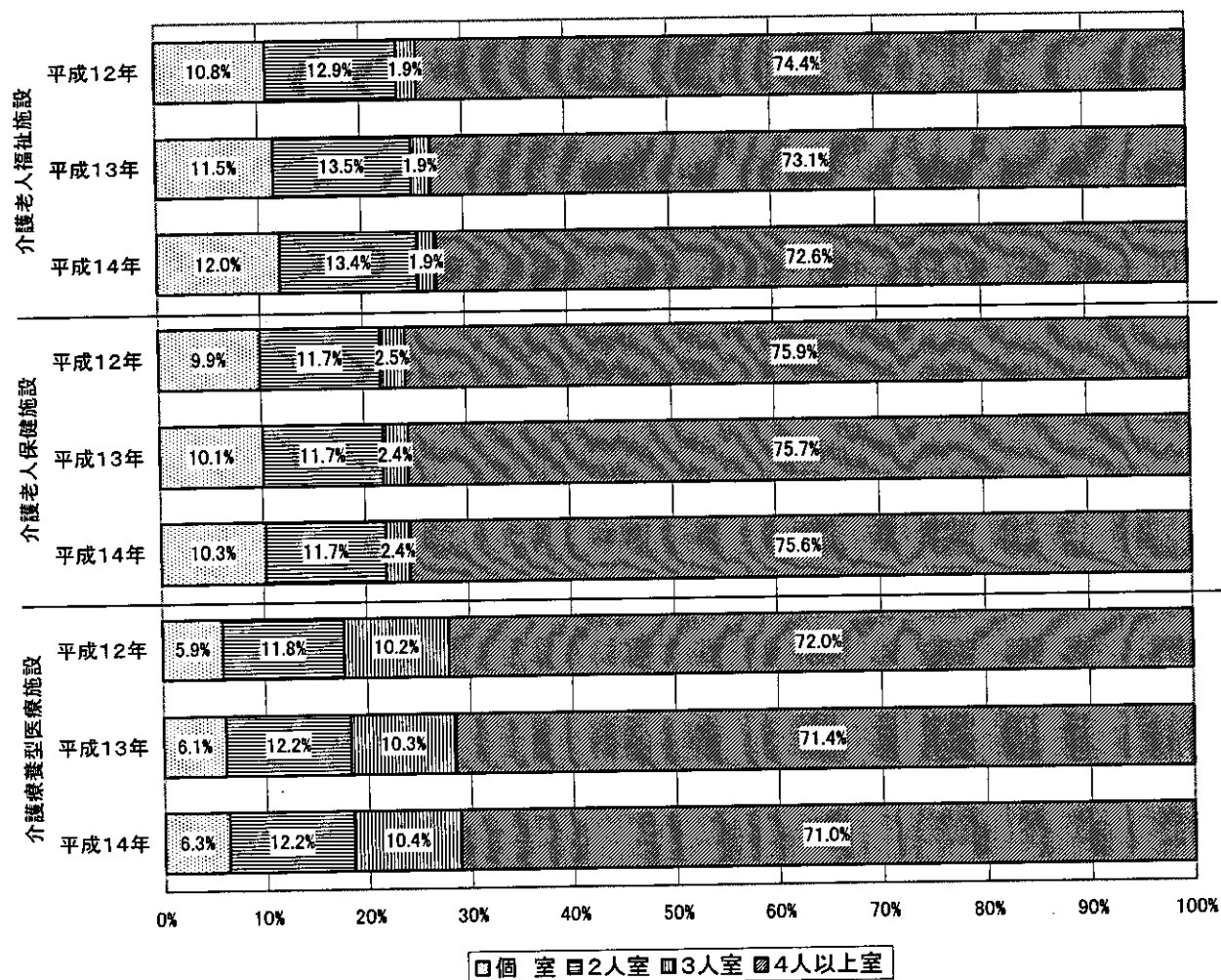


(出典) 介護サービス施設・事業所調査

## 施設居住環境の現状

- 特別養護老人ホームの個室は、昭和 60 年代から増加。
- 平成 14 年 10 月現在においても、介護保険施設の入所者の約 6 割～7 割が 4 人室を利用。

### 施設の種別別にみた室定員別定員数割合

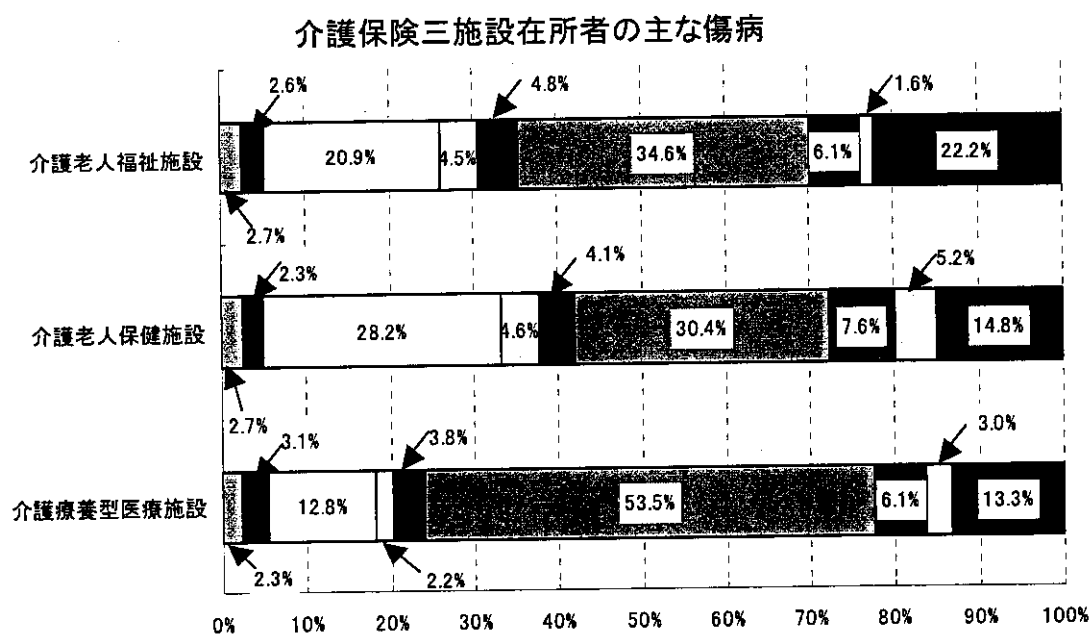


(注1) 各年10月1日現在。(介護サービス施設・事業所調査)

(注2) 各施設における各室の定員数は、それぞれの室の定員数に室数を乗じた数。また、「4人以上室」の定員数は、全体の定員数からその他の室の定員数の合計を減じた数。

## 施設入所者の主な傷病の状況

- 介護保険三施設の在り者の主傷病をみると、三施設とも脳血管疾患の割合が最も多く、特に、介護療養型医療施設では脳血管疾患が半数以上を占めている。
- 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設では痴呆（アルツハイマー病を含む）の割合が高くなっている。



□ 糖尿病	■ パーキンソン病	□ 痴呆
□ アルツハイマー病	■ 心疾患	▨ 脳血管疾患
■ 筋骨格系及び結合組織の疾患	□ 骨折	■ その他

資料) 平成13年介護サービス施設・事業所調査

## 介護保険施設の利用期間

施設の平均利用期間は、老健施設で長期化の傾向が見られ、療養型医療施設では入院2年未満の退所が増え全体として減少した。介護老人福祉施設では、死亡退所の割合が多く、全体としてやや長期化が見られる。

### ○平均利用期間の推移

	平成12年	平成13年	増減
全 体 (3施設計)	356.2 日	393.3 日	37.1 日
介護老人福祉施設	1455.5 日	1502.2 日	46.7 日
介護老人保健施設	184.8 日	229.2 日	44.4 日
介護療養型医療施設	403 日	359.3 日	▲ 43.7 日

(退所後、家庭に戻ったケース)

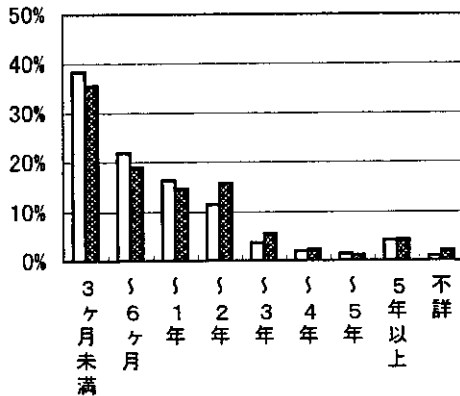
	退所者に占める割合			
	平成12年	平成13年	増減	
全 体 (3施設計)	129.1 日	144.4 日	15.3 日	平成12年 36.8%   平成13年 32.7%
介護老人福祉施設	652.1 日	1500.9 日	848.8 日	3.6%   1.6%
介護老人保健施設	118.4 日	135.9 日	17.5 日	45.0%   40.5%
介護療養型医療施設	168.2 日	148.8 日	▲ 19.4 日	23.0%   21.4%

(死亡による退所)

	退所者に占める割合			
	平成12年	平成13年	増減	
全 体 (3施設計)	1124.2 日	1115.2 日	▲ 9.0 日	平成12年 11.4%   平成13年 14.1%
介護老人福祉施設	1617.7 日	1625.1 日	7.4 日	57.0%   65.5%
介護老人保健施設	314.8 日	534.5 日	219.7 日	1.7%   2.3%
介護療養型医療施設	639 日	571 日	▲ 68.0 日	23.8%   28.6%

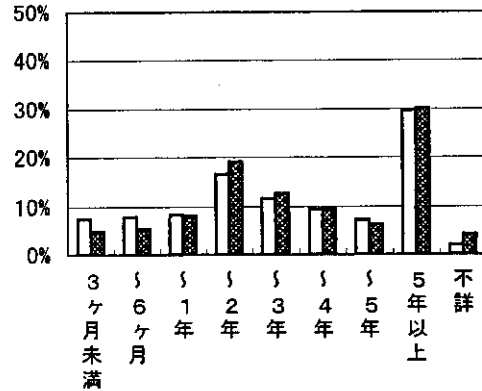
### ○退所者の利用期間の分布

◇全体(3施設計)

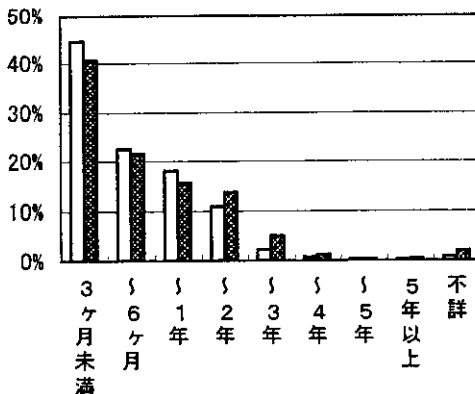


左:平成12年 右:平成13年

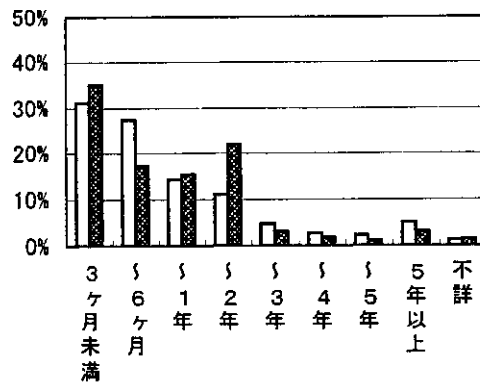
◇介護老人福祉施設



◇介護老人保健施設



◇介護療養型医療施設

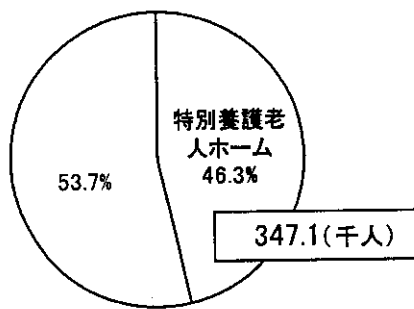


出典:介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省統計情報部)

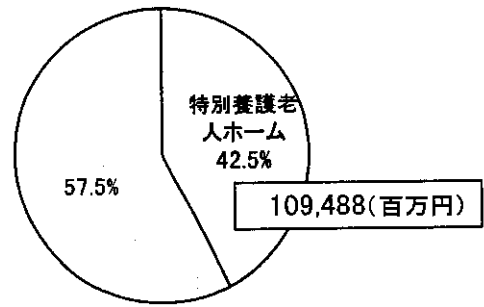
※各年9月中(1ヶ月)の施設退所者についての値。この調査は、平成12年から開始。

# 特別養護老人ホーム

◇施設サービス全体からみた「特別養護老人ホーム」の利用者率と費用額のシェア率



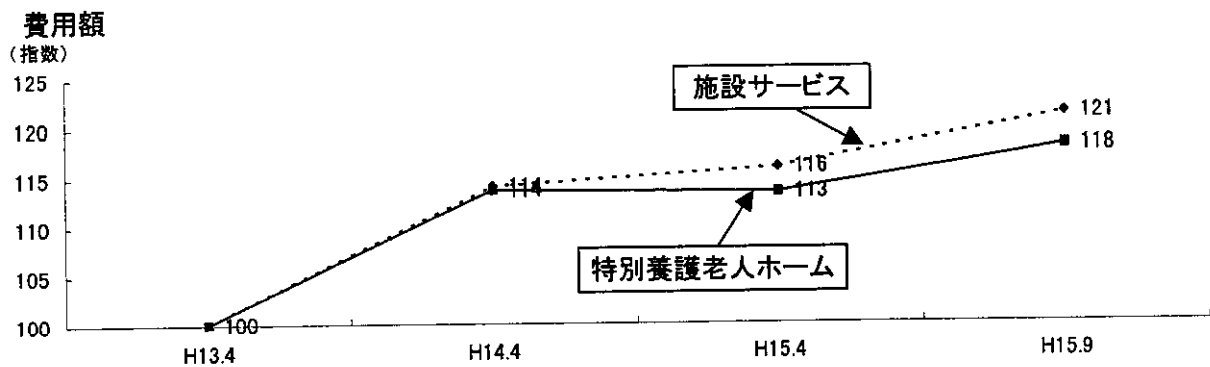
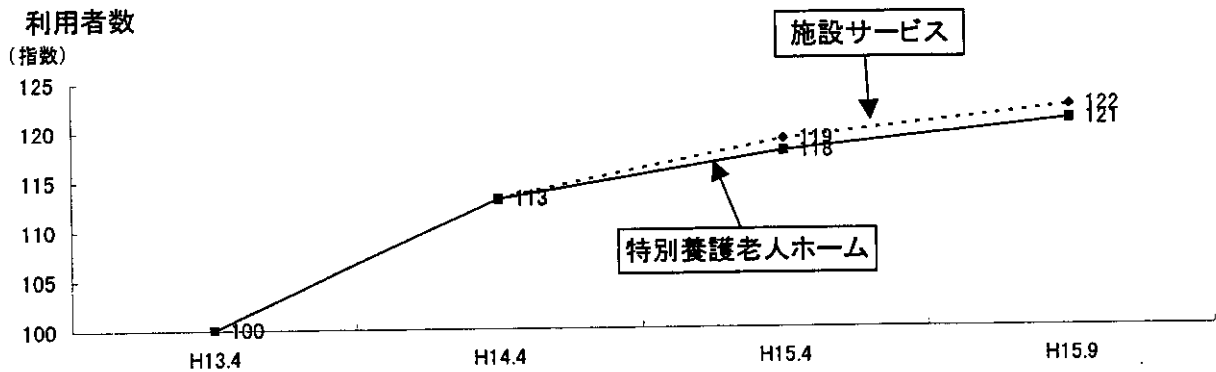
利用者数(749.1千人)



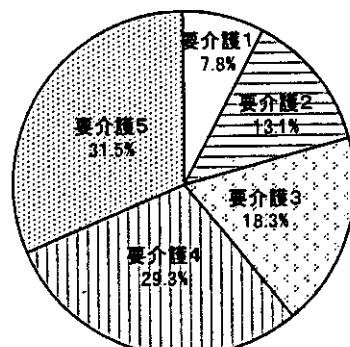
費用額(257,551百万円)

(平成15年9月サービス提供分)

◇「特別養護老人ホーム」及び「施設サービス」の利用者と費用額の伸び。(指数)



◇要介護度別にみた、利用者の構成割合。



出典: 介護給付費実態調査

## 特別養護老人ホームにおける個別ケアへの取組

- 施設は、常時の見守りと、必要に応じて臨機応変の介護を提供することによって、入所者に365日・24時間の安心を提供してきた。  
しかしながら、多くの要介護高齢者を一堂に集めて処遇するという施設の性格上、入所者には集団生活の中でケアを提供せざるを得ない面があったことは否定できない。
- こうした集団生活の中でのケアや、4人部屋・大きな食堂など入所前と大きく異なる施設の環境は、入所者にとって在宅での暮らしと落差が大きく、できる限り自立した生活を営んでいけるよう支援するという観点からは問題があり、施設には入所者一人一人の個性と生活のリズムを尊重した介護（個別ケア）を行うことが求められている。
- 個別ケアを実現するための手法として、特別養護老人ホームでは、「ユニットケア」を導入する施設が増えつつある。
  - \* ユニットケアは、在宅に近い居住環境の下で、入居者一人一人の個性や生活のリズムを尊重し、入居者相互が人間関係を築きながら日常生活を営めるよう介護を行うもの。
  - \* ユニットケアには、在宅に近い居住環境が不可欠であることから、居室は個室（サービス提供上必要と認められる場合は、2人部屋も可）とし、居室の近くには共同生活室（少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できる部屋）を設けることとしている。
- ユニットケアは、これまでのケアとは大きく異なるものであることから、ユニットケアを導入する特別養護老人ホームの管理者及びユニットリーダーに対して平成15年度から研修を実施。

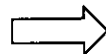
### 1. 特別養護老人ホームにおけるユニットケアの制度化

- 昨年4月の指定基準省令等の改正により、ユニットケアを行う施設を「小規模生活単位型」として、その運営基準、構造設備基準を設定。  
また、これに合わせて「小規模生活単位型」の介護報酬を設定。

（介護報酬の改定）

- ・ 小規模生活単位型

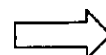
（新設）



要介護1	784単位/日
要介護2	831単位/日
要介護3	879単位/日
要介護4	927単位/日
要介護5	974単位/日

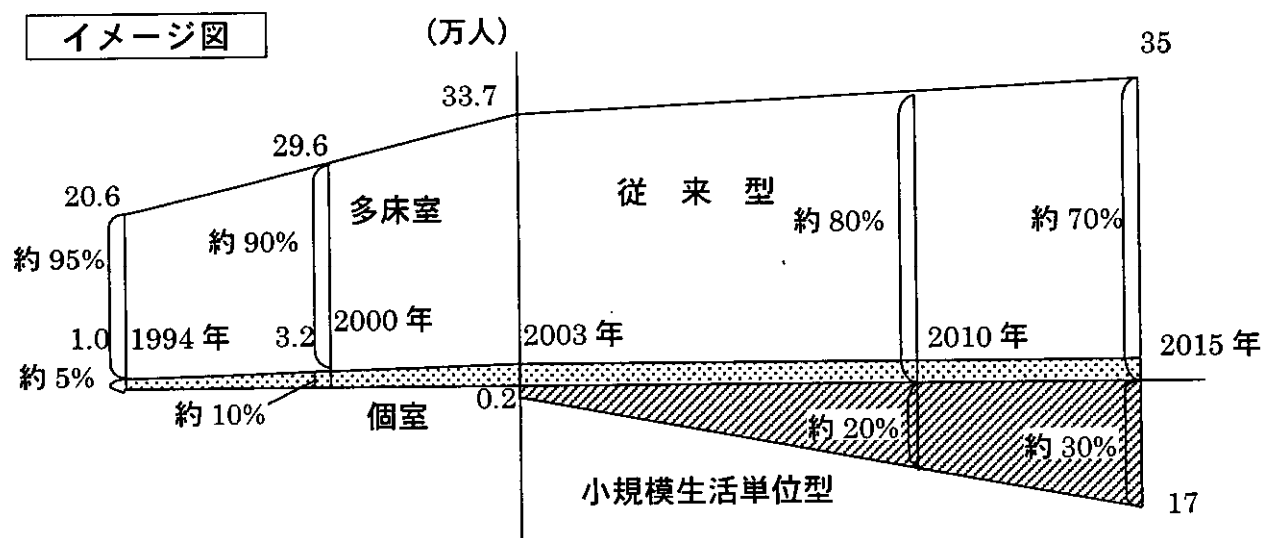
- ・ 従来型

要介護1	769単位/日
要介護2	841単位/日
要介護3	885単位/日
要介護4	930単位/日
要介護5	974単位/日



要介護1	677単位/日
要介護2	748単位/日
要介護3	818単位/日
要介護4	889単位/日
要介護5	959単位/日

- 新設する特別養護老人ホームは、「小規模生活単位型」が基本。
  - ・ 特別養護老人ホームは、これまでに約5,000施設（約34万人分）が整備されている。（4人部屋主体の従来型）
  - ・ 選択の幅という意味で、従来型と「小規模生活単位型」が半分ずつになるまでは、国庫補助を受けて新設する施設は「小規模生活単位型」を基本としているが、それだけでは2015年時点で「小規模生活単位型」の利用者は全体の3割に過ぎない。（従来型の中の個室を含めても約4割。）



- (注1) 小規模生活単位型については、平成15年度（2003年度）における新規着工分（約14300人分）が今後2014年度まで継続すると仮定。
- (注2) 従来型については、平成15年度（2003年度）における新規着工分（約800人分）が今後2014年度まで継続すると仮定。

○ 小規模生活単位型特別養護老人ホームの施設数、費用額の推移

	平成15年4月	平成15年9月
請求事業所数	42	74
費用額 (単位：億円)	6.5	14

出典：「介護給付費実態調査月報」

(\*) 請求事業所数には、一部小規模生活単位型特別養護老人ホームを含む。